国際部報告

第7回 WFAS 世界鍼灸学術大会（フランス・ストラスブール）参加報告 －執行理事改選および JSAM から WFAS 執行部への提案－

若山 育郎、高澤 直美、石崎 尚人、津嘉山 洋、津谷喜一郎

全日本鍼灸学会国際部

要 旨

2009年11月3日～7日にかけて、フランス・ストラスブールの欧州議会会議場において、世界鍼灸学会連合会（WFAS）第6次執行理事会、第7次総会、第7次執行理事会、2009年度学術大会が開催された。

WFAS総会では、執行理事の改選が行われ、49名の執行理事から成る第7次執行理事会が発足した。また、2010～2013年度のWFASシンポジウム・世界鍼灸学術大会の開催国が決定した。

新執行理事会では、全日本鍼灸学会（JSAM）からWFASの運営方法に関する提案を行った。提案は8項目から成るものであったが、その中で執行理事会の議事録を作成すべきであるという提案が最も重要な提案であった。WFAS執行理事会では、これまで2006年のバリ大会の会議を除いて議事録が各理事に配布されたことはなかったからである。

学術大会では、鍼灸に関する教育、法整備、また伝統的研究、科学的研究などのセッションが開催された。

JSAMとしては、今後も学術面においてWFASに貢献するとともに、必要と考えられる提言をしていくことがWFASの発展に寄与すると考えている。

キーワード：WFAS、総会、執行理事会、フランス、ストラスブール

I. はじめに

ストラスブールはフランスでもドイツ国境に近く、歴史的にもドイツ領となったりフランス領となったりした町で、パリから飛行機で約45分、新幹線TGVでは約2時間半の距離である。町中はトラムと呼ばれている路面電車が縦横に走り（図1）、市民の足としてはこのトラムとバスが中心である。パリから遠く離れたこのストラスブー

ルで世界鍼灸学会連合会（World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies: WFAS）の世界大会が開催されたのは、今回の大会は本来韓国で開かれる予定であったのが中止となったものの、代わりの開催場所が見つからず、昨年の執行理事会で急遽フランス・ドイツ共催案が浮上したことによる。1年未満の間に世界大会を準備するのは容易でなかったことは想像に難くなく、そういう

筆頭連絡先：若山 育郎 〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1 関西医療大学

Wakayama Ikuro: Kansai University of Health Sciences, 2-11-1 Wakaba, Kumatori, Osaka 590-0482, Japan

E-mail: wakayama@kansai.ac.jp

図1 ストラスブール町中の様子

図2 ストラスブール欧州議会

状況のなかで開催を引き受けていただいた今回の主催者には大いに感謝をする。その結果、会場はフランス・ドイツ両国の共催を象徴する場所であり、また欧州議会があって人類結束の象徴でもあるこのストラスブールに決定された。会長は Denis Colin (College Francais d'Acupuncture et de Medicine Traditionnelle Chinoise: CFA-MTC)、副会長は Michael German (Acupuncture and TCM Society of Physicians Educated in China) で、会場は欧州議会 (図2) であった。

今回は執行理事の改選の年に当たるため、学術大会とは別に第6次執行理事会の第6セッションが11月3日、第7次総会 (General Assembly) と第7次執行理事会が11月4日、学術大会が11月5～7日に開催された。全日本鍼灸学会 (The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JSAM) からは、著者らのほか、形井秀一 (JSAM 参与)、篠原昭二 (JSAM 編集副部長) が参加した。本稿では、第6次執行理事会、第7次総会、第7次執行理事会、学術大会の4つに分けて報告する。また、JSAMでは以前からWFAS執行部の運営方法に少なからず疑問を持っていたが、今回その改善を期待して、敢えてWFAS執行部に文書で提案をしたので、それについても説明する。

II. 第6次執行理事会第6セッション

11月3日 (火) 午後3時30分からの開催予定であったが、欧州議会に入場する際のチェックが厳しく時間がかかったためやや遅れて始まった。JS

AMからは、津谷喜一郎 (WFAS 執行理事)、若山育郎 (黒須幸男 WFAS 副会長代理) が出席した。例年であれば理事以外のオブザーバーの参加も認められているが、今回は欧州議会という会場の特殊性からか陪席は認められなかった。

Deng Liangyue (鄧良月) 会長の開会の挨拶に始まり、続いて Shen Zhixiang (沈志洋) 事務局長による第6次執行理事会の活動報告があった。いつもの事ながら中国語での報告の後に英語で訳をする形なので時間が倍以上かかるのもさることながら、議事書に書かれた報告をただ読み上げるだけなので、ノルウェー代表理事で WFAS 副会長の Arne Kausland 氏からは、前もって議案を各理事に送付して目を通すように依頼し、執行理事会は主に議論の場とするほうが良いという意見があった。そういえば Kausland 氏は毎年同じ意見を述べているが、議案は2年前に1度送られたのみで、それ以外は実行された試しがない。今回は再度強く主張されたので来年はどうだろうか。JSAM 津谷からも Kausland 氏の意見に賛同するという発言をしたが、その後に続く賛同はなかった。長い朗読のあとディスカッションに移った。

議案は以下の如くであったが、ここでは、この場でなされたディスカッション、特に1)～3)に対してJSAMから申し出た意見について解説する。

- 1) 第7次総会準備状況
- 2) 2005～2009年活動報告
- 3) 収支報告
- 4) 会員の退会に関する審議

- 5) WFAS 憲章改訂に関する審議
- 6) 新執行理事候補者案に関する審議
- 7) 第7次執行理事会としての提案
- 8) 2010～2012年シンポジウムおよび第8次総会(2013年)開催地に関する審議

JSAMからは若山より、昨年の北京での執行理事会以降、理事会は開催されていないのに加盟学協会が増えているのはどういう訳かを質問した。それについてはe-mailかfaxにて理事各位の意見を聞いて決定しているとの返答であったが、引き続いて津谷より、こうした混乱の原因は一に執行理事会の議事録を作成していないからであるというコメントと、JSAMではe-mailもチェックしたがそうした連絡は受けていないことを主張した。さらに、津谷より次のような提案をおこなった。すなわち、前回執行理事会以降に承認した新入会メンバーのリストを次の理事会で提出する習慣をつける、執行理事会では、ラポーター(書記)をおいた上で議事録案を作成、理事会メンバーに承認を得る、などである。執行部からはこれに答えて、運営改善の努力をするとの返答があった。

次に、財務担当より前回総会後の2005～2009の収支報告があった。収支報告とはいっても、明細などは全くなく年単位での大まかな収支のみであるのにも驚かされたが、各加盟学協会からの年会費がほとんど回収されていないことも驚きであった。収支報告に関しては津谷より記載のミス指摘するとともに、若山より監査報告がないことも指摘した。

その他、上記4)～8)に関する審議があったが、それらについては総会の報告の箇所です述する。

Ⅲ. 第7次総会 (General Assembly)

11月4日(水)、予定より40分遅れの午前10時に、WFAS第7回通常総会が開会した。まずWFASの鄧良月会長より開会宣言があり、続いてブラジル大統領およびブラジルの厚生大臣、開催国フランスの保健大臣からの祝辞が代読された。その後、中国国家中医薬管理局副局長のWu Gang氏の歓迎スピーチのあと、WFAS事務局長の沈志洋氏より第6次執行理事会の作業報告があっ

た。

1. 第6次執行理事会作業報告

主な内容として、まず加盟団体数の報告があった。2005年から2009年の間に36団体の参加申し込みがあり、30団体が承認されたという。これでWFAS加盟団体は合計で139となったが、このうち20団体が総会の前日(11月3日)までに全く活動に参加しなかったのと年会費未納のため除名となり、最終的に現在のWFAS加盟団体数は119となった。

その他の作業項目として、鍼の法的地位向上、鍼灸医学の宣伝と推進、鍼治療者の専門的なスキルを高める鍼教育の強化、鍼に関する情報を提供する鍼学術雑誌の出版、国際鍼標準の制定と宣伝などの作業を行ったという。どれも世界保健機関(World Health Organization: WHO)との協力関係の枠組みのもとでWHO伝統医学戦略を実行に移しているのだということであった。この報告を後ろ支えするように、翌日の学術大会開会式で、WHOの伝統医学コーディネーターであるZhang Xiaorui(張小瑞)氏が“鍼の領域でWFASとの協力を強化する”と謳い、2008年の北京宣言に沿った行動目標を提示した。内容は、法制化の促進、鍼治療の標準化、西洋医・医学生・鍼灸師の訓練プログラムの設営、西洋医・医学生・研究者・鍼灸師が協力して適切な研究方法を開発すること、研究情報を共有すること、他のTM/CAM(伝統医学/補完代替医療)とともに鍼が各国の医療計画に組み込まれるように多面的なモデルを検討するといった内容であった。WFASはWHOの鍼の領域における作業部隊であるといった印象を与えていた。

2. WFAS 2005-2009財務報告

2005年から2009年までの間に加盟団体から合計\$190,000が支払われるべきところ、19.6%の\$37,377しか集まらなかったという。国によっては支払いが困難なところもあるかもしれないが、JSAMに会費の請求書が届かなかった年もあり、財務諸表もなく、運営のずさんさがうかがわれる。足りない分は中国政府や中国中医科学院、会員学会などからの寄付で賄っているということである。

2008年にはWFAS本部の建物2,000㎡のために中国政府から2,300万元を受け取ったというが、これは日本円にすると3億円以上である(2010年1月6日現在のレート換算)。中国政府の力の入れようがうかがえる。会員学会が会費を支払わなくてもなかなか除名しないのは、会員学会数が減ることで中国の影響力が小さくなることを懸念しているようにも思われる。

3. WFAS憲章改訂

8つの項目につき改訂が議決・承認された。主なものとして加盟団体の増加に伴う、執行理事会の構成メンバーの増員があった。

- 1) 執行理事会役員の数と30-40名から50-60名に変更
- 2) 副会長数を8-12名から14-20名に変更
- 3) 執行理事数を18-24名から32-36名に変更

実際には総会前日に20団体が除名された結果、5年間で増えたのは10団体だけであったのだが、何としても執行理事の数を増やしたかったようである。

4. 執行理事の改選

改訂された憲章に基づき、執行理事会の会長、副会長と執行理事等が改選された。

今回、総会前2〜3か月の間に、各参加団体に各国ごとの割り当て議席数に合わせて立候補予定者の名簿を提出させ、e-mailで予備選挙を行った。その結果をもとにWFAS執行部が各国の候補者を選別して本選挙が行われたのだが、予備選挙の結果は総会では公開されなかった。予備選挙を含め選挙の手順については、あらためて議論が必要である。

また、今回は執行理事による入会審査すら経ないまま、JSAMも知らないうちに日本からもう1団体がWFASに加入した格好になっていて、WFASのウェブサイトメンバー学会として掲載されていた。そして予備選挙の名簿にまでその団体代表が候補者として挙げられていたのである。本選挙では日本代表の候補者リストからは外されていたが、正式な手続きを踏まずに物事を進める

WFASのやり方が、ここでも露呈した。

さて、本選挙であるが、全出席者数は104、委任状38通で、当選するには過半数の72票以上を取る必要があった。JSAMからは副会長1名、執行理事1名、代議員6名分の計8票(3委任状含む)を準備して臨んだ。その結果、日本からの候補者は全員が当選した(副会長:津谷喜一郎JSAM顧問、執行理事:若山育郎JSAM国際部長、高澤直美JSAM国際部副部長)。落選したのは執行理事候補者のうち4名(オーストラリア、オランダ、スペイン、スロベニア)であった。最終的に、前会長、会長、副会長18名、事務局長、会計、執行委員27名の、計49名の第7次執行理事会が誕生した(表1)。

表1 国別の議席一覧表

国・地域	副会長	執行理事	その他の役員
中国	○	●	会長、事務局長、会計
USA	○	●○	前会長
カナダ	●	○○	
フランス	●	●○	
ドイツ	○	●○	
イタリア	●	●○	
日本	●	●○	
オーストラリア	●	●	
ブラジル	●	●	
インドネシア	○	●	
韓国	●	●	
ニュージーランド	○	●	
ヴェトナム	●	●	
エジプト	●		
ノルウェー	●		
ロシア	○		
シンガポール	○		
スペイン	○		
アルゼンチン		●○	
台湾		○○	
ポルトガル		●	
中国香港		○	
中国マカオ		○	
マレーシア		●	

注) ●は第6次執行理事会からの議席。○は第7次執行理事会からの議席。

5. 名誉職授与

王雪苔名誉会長の死去に伴い、中国衛生部副部長で中国中医薬管理局局長を務める中国鍼灸学会名誉教授のWang Guoqiang（王国強）氏に名誉会長、またWFAS設立準備時から運営に携わり、第3次～第6次までの執行理事会副会長を務めた黒須幸男氏に名誉副会長の称号を与えるという提案が承認された。

6. 2013年第8回総会と2010～2012年シンポジウムの開催国選出

2013年に予定されている第8回総会と、2010年から2012年に行われるシンポジウムの開催国が選出された。スライドやビデオを使った誘致プレゼンテーションの後に投票が行われ、表2のように決定した。

表2 2010～2013年開催国

2010年	シンポジウム	USA（サンフランシスコ）
2011年	シンポジウム	ブラジル
2012年	シンポジウム	インドネシア
2013年	第8回世界大会	オーストラリア

IV. 第7次執行理事会第1セッション

11月4日（水）の第7次総会の後、引き続いて同じ会場で先ほどの改選で選任された新執行理事による第7次執行理事会第1セッションが開催された。鄧良月会長の開会挨拶の後、当日の議事について説明があり、それに従って進められた。Cooperative Plan between WFAS and WHO for the year 2010-12（2010年～2012年におけるWFASとWHOとの共同活動計画）と題した事業計画の説明が沈志洋事務局長よりあった。WHOとの連携の強調と鍼灸に関する標準化作業の重要性が伝えられた。

つぎにProposal for Instituting WFAS Acupuncture Standard（鍼灸に関するWFAS標準の制定）と題した提案がLiu Baoyan（劉保延）氏よりあり、鍼灸の国際標準化の必要性を強く主張した。これに関して津谷より、鍼灸の国際標準化に関しては、WHOで既に行われていること、また国際標準化機構（International Organization for

Standardization: ISO）における2つの技術委員会（Technical Committee: TC）にて議論が開始されつつあることなどを説明し、WFASでも標準化を行うとなると3者がバラバラに進む可能性もあるため、WFASとしてはWHO、ISOの活動を踏まえながら何を議論すべきかを考えていかなければならないと指摘した。それに対して劉氏からは、WFASの標準化は産業上の？（industrial）標準化を行っていくのであるとの曖昧な返答があった。

また、この新理事会において特筆すべきは、津谷の提案で、JSAMからWFAS執行理事会の運営方法に対する改善案を新執行理事会メンバー全員に文書（図3）で配布したことである。その内容は、

- 1) 新会員の入会審査においては、もっと詳しい情報をもとに審査を行うべきである。
- 2) WFASの学術レベルを維持するため、入会の基準をもっと厳しくすべきである。
- 3) 執行理事間のコミュニケーションがもっと密になるように図るべきである。
- 4) WFASウェブサイト上の倫理規約や加盟学協会は正確なものを掲載すべきである。
- 5) WFAS執行理事会の議事録は、理事会終了後全員に回覧したうえで、最終的な議事録を作成すべきである。
- 6) 会長、副会長、執行理事選出の詳細な手順を文書化し、WFAS加盟の学協会に配布すべきである。
- 7) 収支報告とその監査報告を毎年開催される執行理事会に提出し、理事会での承認を得るべきである。
- 8) 執行理事の連絡先を全員で共有し、お互いが連絡できるようにすべきである。

の8項目である。各項目を見ても極めて当たり前の内容ばかりで読者諸兄は驚かれるのではないと思うが、こうしたことをあらためて指摘せねばならないのがWFASの現状である。

鄧良月会長からは、執行部としてはできるだけ改善の努力を約束するが、それと同時に理事会メンバーも事務局との連携を密にして、WFASからの連絡に対して意見のフィードバックをお願いしたいとの返答があった。

図3 全日本鍼灸学会会長 後藤修司氏によるWFASの管理体制改善案の提案(2009.11.3)
(全日本鍼灸学会のwebsite <http://jsam.jp>の国際部と英語版のNewsに掲載予定)

V. 学術大会

1. 概要

WFAS学術大会は2009年11月5日(木)から11月7日(土)まで、ストラスブールの欧州議会にて開催された。初日は開会式(図4)に引き続いて、WHOの張小瑞氏、WFAS副会長の劉保延氏(China)、大会会長のDenis Colin氏(France)らによる基調講演が行われた。それぞれの内容は、2008年の北京宣言について(張)、中国における鍼の標準化について(劉)、フランスにおける鍼

の教育、研究、臨床について(Colin)であった。午後からは、スペイン(Calduch)、ドイツ(German)、カナダ(Bourret)、台湾(Chen)、オーストラリア(James)などによる各国の中医学(Traditional Chinese Medicine: TCM)関連法規や利用の現状、今後の展望などに関する報告に続いて、教育及び施術関連法規や利用の2部門に分かれたセッションが開催され、オーストラリア、台湾、フランス、ドイツ、ブラジル、スイス、イタリア、日本(中央医療学園)などから報告があった。

以後のセッションはテーマごとに会場を分けて

図4 学術大会開会式

開催された。主要なセッションのテーマは、伝統研究 (Traditional Research ; 金曜 9:00-18:30)、科学研究 (Scientific Research ; 金曜 9:00-18:30)、鎮痛 (Pain Management ; 金曜 9:00-15:30)、妊娠と婦人病 (Pregnancy and Women Diseases ; 土曜 9:00-15:30)、重症・慢性疾患 (Serious and Chronic Diseases ; 土曜 9:00-15:30) などであり、各セッション 15~20 演題前後の口演があった。またワークショップとしてイタリアのグループを中心とした肥満 (Obesity ; 金曜 9:00-16:00, 土曜 13:30-15:00) のセッションや鍼の標準化に関するセッション (土曜 9:00-13:30) が催された。

伝統研究セッションでは、フランスにおける TCM の歴史 (Gilles, France) や腧穴に関する考察 (Jean-Marc, France) のほか、日本の森 (鈴鹿医療科学大学) による瘀血に関する発表を含めた 22 題が発表された。本セッションの多くは中医の理論に関する論考が中心であった。

科学研究セッション (計 21 演題) では、高血圧自然発症ラット (SHR) を用いた動物実験 (Kim, Korea)、井穴刺激と生薬 (薏苡仁) が脳浮腫に及ぼす効果 (石田, 鈴鹿医療科学大学 ; Guo, China)、卵巣切除後の骨粗鬆症に対する鍼通電 (Hsu, Taiwan) などのほか、日本の木村 (関西医療大学) による基礎研究や津嘉山 (筑波技術大学) による調査の発表があった。鎮痛セッション (計 15 演題) では、腰痛・坐骨神経痛 (Giorgos, France; Sing, Italy ; Janos, Germany) のほか、消化器外科手術における鍼鎮痛 (Nguyen, Vietna

m)、頸椎椎間板ヘルニア (Rinaldi, Italy) や膝の外傷 (Boriglione, Italy) などについての発表があった。治療法は鍼のほかに推拿 tuina (Rinaldi, Italy ; Boriglione, Italy)、赤外線レーザー (Stephen, Australia) などであった。

妊娠セッション (計 15 演題) では、不妊関連 (Cracolici, Italy; Nathalie, Canada; Tjandra, Indonesia; Cedric, Canada; Liang, Italy; Miguel, Switzerland) が最も多く、不妊以外にはストラスブールの大学病院における産科領域の鍼の紹介 (Annick, France)、子宮手術における鍼鎮痛 (Tsuchiya, Portugal) などがあった。

重症・慢性疾患セッション (計 15 演題) では、慢性疲労 (Ros, Mexico)、高血圧 (Thomas, Germany)、多発性硬化症 (Kahoun, Germany) のほか、日本の清野 (清野鍼灸整骨院: 東京) による尿路結石の発表があった。

2. 肥満セッション

今回はワークショップにて、イタリアの研究者が中心となって肥満のセッションが行われ、報告者も参加した (図 5)。同セッションでは肥満・メタボリックシンドロームにおける中医学的介入 (食事療法、鍼、ホメオパシー) などの効果に関する 13 題のプレゼンテーション及びそれらに関するディスカッションが行われた。冒頭の 3 題は肥満・メタボリックシンドロームの概要と TCM における概念、以降は臨床効果についての研究が主体であった。治療法は、Traditional Chinese Diet と称する食事療法や耳鍼、およびそれらの組み合わせのほかに、ホメオパシーなども含まれていた。評価は体重、BMI、精神状態などのほか、レプチンや TNF- α 、グレリンなどを測定しているものもあった。研究の規模は比較的大きいものが多く、研究によっては 600 例以上を群分けしたものもあった。結果としてはいずれも介入群で良好な方向の結果が得られていた。効果が高かったのは、食事療法と鍼とを組み合わせた研究で、6 週間で平均 8 kg 以上の減量が見られ、食事療法のみの場合 (平均約 3 kg) より有効であるという結果であった。このように研究の規模は比較的大きく、一定以上の効果も得られていたが、治療の多

図5 肥満セッション

くに含まれていた Traditional Chinese Diet は、低カロリー（1200kcal/day）であるために、鍼治療単独の効果には疑問が残る。また Traditional Chinese Diet の組成も発表されていて、熱量が同等の Western Standard Diet との比較もされており、Traditional Chinese Diet では肉類に代わって大豆が多く含まれているという点が特徴的であったが、これを“Chinese”とする根拠は不明瞭であった。

3. 学術大会全体についての所感

学術大会の各セッションでは、スライドの準備や同時通訳システム（中国語－英語－フランス語）の不調や、座長の采配ミスによる進行の遅れが目立った。これは学術大会のみならず、WFAS 全体の運営の問題であろう。今回報告者が参加できた一部の発表を見る限り、TCM の概念的な内容が多くウエイトを占めているように感じた。科学的研究としてのエビデンスレベルは、一部の発表を除いて、さらなる充実が望まれる状況であると感じた。

VI. おわりに

WFAS はその運営に多くの問題を抱えており、その点について不満を持つ者は多い。それでも欧州などからも継続的な参加があるのは、他に適当な発言の舞台がないからなのかも知れない。目下、ISO で鍼の標準化について検討が進められているが、前述したように WFAS でも鍼灸の標準化を行おうとしている。中国が自国発祥の鍼灸を

TCM として世界的に標準化したいという発想はそれなりに理解できるが、欧州勢がそれに疑問を全く抱かずに中国の戦略に乗せられているのは不思議である。東アジア中心に動いている ISO に対して、自分たちがやっていることが標準として認められないのは困るから WFAS で標準化をやるのだという欧州からの参加者もいたが、そういう理由かも知れない。

2010 年の WFAS シンポジウムは米国国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）が共催することになっており、WFAS は今後も当分は鍼に関する議論の場であり続ける可能性が高い。特に標準化に関してはまだ議論が始まったばかりであるため、JSAM としてはその作業に参加しつつ必要な意見を積極的に出していかなければならない。標準化に関しては今回の大会期間中、関連する会議が 2 つ開催されたが（University Cooperation Working Committee と WFAS Acupuncture Standard Committee）、これらについては次号にその詳細を報告する。

改選後の副会長と執行理事のうち、約 60% は新しいメンバーである。執行理事に限れば新メンバーの割合は 85% となり、大幅な人員刷新となった。これを機に、WFAS をどの国にとっても公平な議論ができる場にしていきたいものである。

WFAS Report

Report of 2009 WFAS General Assembly and Acupuncture Congress

WAKAYAMA Ikuro, TAKAZAWA Naomi, ISHIZAKI Naoto
TSUKAYAMA Hiroshi, TSUTANI Kiichiro

Department of International Affairs
The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion

Abstract

The Fifth Session of the Sixth Executive Committee (EC), the Seventh General Assembly (GA), and the First Session of the Seventh EC and 2009 World Acupuncture Congress of the World Federation of Acupuncture-Moxibustion societies (WFAS) were held at European parliament in Strasbourg, France on 3-7 November 2009.

New EC members for the year of 2009-2013 were elected in the GA. The Seventh EC commenced and now consists of 49 members. Host countries for the future meetings were also approved.

In the Seventh EC, the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (JSAM) made a proposal regarding WFAS administrative duties. It consisted of eight items, and among them, the request for making the minutes of EC meetings was most important because WFAS EC meeting minutes have never been sent to the EC members except once, for the Bali, Indonesia meeting in 2006.

Papers regarding acupuncture education, legislation, traditional research and scientific research were also presented in the academic meeting.

JSAM will continue to support the enhancement of the academic level of WFAS and make any necessary proposals toward the further development of WFAS.

Zen Nihon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM).
2010; 60(1): 91-99

Key words: WFAS, General Assembly, Executive Committee, France, Strasbourg